

Warta DAICHI

大地のジャカルタ便り



まだまだ、夏休み

ハイライト:

バリ・ロンボック特集号です。
今回は特に写真をお楽しみください。
さてさて、どんな休日を過ごしたのやら？

今回の目玉はなんと言っても初体験（注：大地と父）のバリ・ロンボック島での休日でしょう。この二つの地名を聞けば、誰もが「まあ、いいですね」と感想をもらします。ただしプレイグループのお友達のマックスのお母さんからは「でもまだ子どもが小さす



てしまった大地は文字通りびしょびしょでした（写真上）。最後はバリの習慣で、海にお供え物を流す儀式を訪ねて浜辺を散歩しているところです。

目次:

象さん、一つ、転んじゃったの	2
やはり、猫	2
馬に乗りたい!	2
さらなる大地ワールド	3
あとで、ごめんねしようね	3
母さん、おこっちゃだめだよ	3
マイブーム	4

ぎで、大変でしょう」と共感できるもっともなコメントをもらいました。が、それでも（それだからこそ?）楽しく夏休み後半を過ごした三人でした。

この旅で、大地は初めて海を波打ち際でみたのでした（写真上）。また波が荒く海には入れませんでした。ホテルの庭のシャワー横にある水がめにほれ込み、最後は水がめの中にまで入っ



トロピカルな朝食

バリに到着したのはもう日が暮れてからで、翌朝になって初めて周囲の景色が目飛び込んできました。ホテルの目の前が海だったんです。海を臨みながらの朝食はトロピカル一色。日本から飛んできた父のみならず、ジャカルタで都会ライフを送っている母も、そして大地もわくわくして、朝食をいた

だきました。フレッシュジュースに、お皿一杯の果物、焼きたてのパン、どれもおいしく頂きました。これらをバリ島の静かな村でいただけるということに、バリのバリたるゆえんを再確認したところです。とはいえ、大地が一番感動したのは、毎朝欠かせない一杯の牛乳だったようです。

象さん、一つ、転んじやったの

バリからロンボックに移動した翌日、大地と父は二人で過ごしました。夕方再会した母に「象さん、一つ、転んじやったの」というのです。はて、と意味が判らずにいると、父が通訳してくれました。ロンボック島に象がいるとホテルの人に聞いて、象に乗るために二人でかけたところ、今はもういなかったのだそうです。二頭いたうちの一头が死んでしまったので、一头では可哀想ということで故郷のスマトラ島に返されたのだとか。「死んじやった」といえず「転んじやった」になっただけなのです。ただそうと知るまで、象に乗ろうと、二人はあまりに盛り上がり過ぎてしまっていたために納ま

りが着かなくなってしまい、結局、二人は野生のサルがたくさんいるところに連れて行ってもらったのだそうです。バナナを持っていくと、父が怖くなるぐらいサルがわらわらやってきたので、大地がぼんぼんバナナをサルに向かって投げ、それがなくなると「Banana, Finish, OK?」と両手を広げて説明したそうです。ここで大笑いしてしまった母は、その後のサルがどうしたのかを聞き忘れてしまいました。写真はバリの東海岸の海を臨む超高級リゾートホテルで(注：ランチのみ)



やはり、猫

バリの猫の置物は、おみやげ物でも知られています。右の写真はホテルのおみやげ物屋さんで。ねこ好きの大地は、早速猫を発見。色をそろえて並べ始めました。きれいにグラデーションしているので、これは「芸術！」と興奮する両親。買い物が終わって店を出て行くときも、それを崩すのが勿体無いぐらいでした。そこでそのままの方が、きっとお客さんの印象に残るよ、これは芸術だ、と勝手に決め付け、お店の人にありがとうね、

と一言声を掛けてドアをでました。すると後ろから「あーあ、猫がそのままだ、片付けなきゃいけないや」という独り言が聞こえてしまいました。芸術だと思うのは親ばかり以外の何ものでもない、ということでした。反省。



馬に乗りたい！

ロンボック島はバリよりも美しい海で名が知られています。ところが父と大地は大半の時間を馬車に乗って過ごすことになりました。これならジャランジャランするのもお手のもの。最初はそんな気軽さから乗り始めたものの、一日終わってみたら、二人はなんとその日だけで10万ルピア分馬車に乗ったことになりました(注：結構おいしいものが食べられるだけの値段です)。最後は飛行場にも馬車で乗り付けましたが、中には入れてもらえず、飛行場の入り口から荷物を運ぶこ

とになって苦労した、というおまけつきでした。

ジャカルタに帰っても興奮は収まらず、「大地、ロンボックでお馬乗ったの、またお馬したい」とせがみます。ある日曜日、今度は独立記念塔(MONAS)の周りをひたすらぐるぐる回りました。今でもまた乗りにいきたい大地は「大地、馬する、父さん、象さんに乗る」と始終いつています。今度はスマトラの象公園に行くしかないかなあ、と半ば本気で調べている母でした。



母が豚の泣きまねをすると大喜び。翌日ソフィアンさんに「母さん、ぶーぶーする」とまねをしてみせます。



さらなる大地ワールド

「大地食べたいかも」「これ、おいしいと思うよ」「大地これしたいかなー？」と、ますます言葉が達者になって自分の意思を伝えられるようになってきました。最近、自分が今食べることに興味がないのに、何かを食べさせられようすると「これ、おいしくないと思うよ」と先手を打ってくることもあります。インドネシア語に「カタニャ」という言葉があります。日本語では「・・・だって」という感じでしょうか。誰かの言葉を引用するときに使うのですが、大地の場合は、自分が主語のときでも「カタニャ」を連発するので、こちらでは「カタニャ、カタニャばかりだね」と笑わ

れています。これには訳があります。周りがインドネシアの人ばかりでも、母に対して話すときは日本語を選んで話してくれるので、その内容を周囲の人に説明するときに母が、「カタニャ ダイチ（ダイチが言うには・・・）」と前置きして通訳するので、大地にとって「カタニャ」で会話を始めることが自然なのではないか、と思うからです。とはいえ、「カタニャ、ティダ マウ マカン（食べたくないよ、だって）」などを連発されると、「えー、誰のこと？大地のことでしょ？」と思わず笑い出し、突っ込んでみたくなるのは、どうにも仕方ありません。

あとで、ごめんねしようね

出没した巨大なゴキブリに叫び声を挙げながら、殺虫剤をスプレーする母です（本当に大きいのです）。あまり母が怖がると、無用の恐怖感を与えるかな、と理性と戦いながら、ようやく殺虫剤をかけほったところ、大地に「ゴキブリ、シューしたね、痛かったね？」と言われ、言葉に詰まりながら「うーん、確かに痛かったかもしれないねえ」と答えると「かわいそうねえ、あとで、ごめんねしようね」と言われました。変な顔

している自分を意識しながらなおも返事に困っていると「あとで、ごめんねしようねえ」と念を押されて思わず心にもない約束をしてしまいました。後日ブレイグループの連絡帳にそれを書くと、先生から「そうです、私たちはここで、どんなものも傷つけてはいけなくて教えています！」と高らかに宣言されてしまいました。それはそうなのですが、やっぱりゴキブリとの仲直りだけは避けたいなあ、と思うのでした。



母さん、おこっちゃだめだよ

ある晩母が帰宅すると、大地が何か言いながら机の上に上りました。机に乗ってはいけないことは知っているはずの大地です。他のことなら一呼吸おける母も、机の上に乗る大地にはなぜか脊髄反射で叱責できるのです。この日考え事をしながら大地の言葉を聞き流していると、目の前で机に上ったので、ここぞとばかりに叱責しました。すると見上げた大地の顔が崩れて、どうしようもなく悲しい顔で泣き出しました。「しまった」と思ったのは、その時大地が「リシック」とか

エマ先生」とか言っていたような気がしたからです。そうか大地は「リシックがこうやって机の上に乗ってエマ先生に怒られたんだよ」と報告していたのではないかと、思ったからです。案の定、その場を見ていたヤンティさんも、こちらの予想を裏切らない話を大地から聞いていました。「ごめんね、母さんが悪かった、話を聞かなくて」とひとしきり謝りました。翌朝目覚めると開口一番、「母さん、おこっちゃだめだよ」でした。反省です。



今日も、明日も、元気印。

お待ちしております！

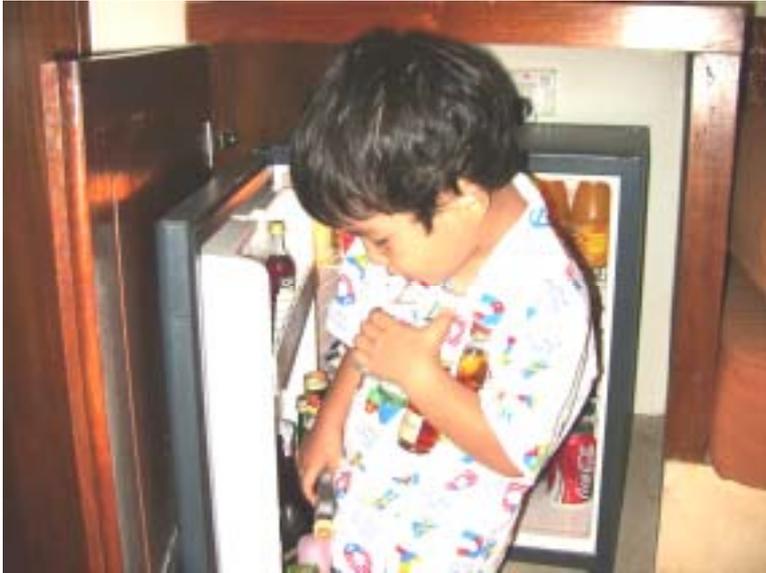
夏休み号 第二弾

Tamanpuri Setiabudi No.19
Jl. Karbela Selatan, Setiabudi, Jakarta,
Indonesia

電話 +62(21)5211519

Fax +62(21)5277409

Email: Okeikoy@aol.com



今回のバリ・ロンボック写真特集はお楽しみ
いただけたでしょうか。写真はホテルの冷
蔵庫からお酒のピンを集めて父に運ぶとこ
ろです。ビールを指して「父さん、たくさ
ん大好き、母さん、ちょっと好き」と叫び
ます。



マイブーム

【オイル】

父と母がマッサージをしてもらっている横で
遊んでいる大地です。これもバリ島らしい写
真でしょうか？

【怪しい二人】

気がついたら歯の根があわなくなるほどプ
ールで遊んでいた大地、少し身体を休めるとき
もめがねをはずしません。



【風船】

どこにいても風船を欲しがる大地。昨日の
風船が翌朝にはちょっと小さくなるのは仕方
ないということが判ってきたようです。ウサ
ギの顔の風船に、朝ごはんのジュースを「飲
む？」と尋ねている大地です。

